令和2年度　南国市立大湊小学校　学校評価書

校 長　山崎 雅史　印

学校教育目標	人間性豊かにたくましく生きる大湊の子の育成	研究主題	「表現力の向上をめざして」～言語活動の充実を重視した授業づくり～

大項目	中項目	評価指標	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価
学力向上	(1)規範意識の育成	①大湊シートの「ルール」や「きまり」についての項目で、肯定的評価80%以上。 ②保護者「学校評価アンケート」の「社会のルールやきまりを守る指導」の項目で肯定的評価90%以上。	①「ルール」や「きまり」に関する肯定的評価は、6月期90.0%、12月期92.2%と評価指数を達成できた。②保護者アンケートの肯定的評価は94.4%である。学級活動や道徳の授業において、規範意識を育てる指導を継続的におこなっていることが成果となっている。登下校の安全指導が課題となる。	B	大半の児童は、ルールやきまりを守る意識が育っている。家庭の状況に厳しさがある児童への具体的支援を、関係機関と連携して進めていく。今後も地域と連携し、児童の登下校の安全指導を行っていく。	○ルールや決まりについての項目は全体で92%と目標値を上回っており、良好である。これからも児童の規範意識の向上に向け、取り組んでほしい。廊下を走ることや机ロッカーの整頓については、80%台であり、できたことを褒めるなど児童が自覚できるよう、支援を行うことが大切ある。
	(2)授業改善	大湊シートの「授業」について、次の項目で肯定的評価90%以上 ①授業中、先生や友だちの話をしっかり聞いている。 ②自分の思いや考えを発表している。 ③授業は分かりやすい	①「授業中、話をしっかり聞いている」の肯定的評価は、6月期97.5%、12月期97.2%と評価指数を達成。大半の児童が授業中しっかり集中できている。②「自分の思いや考えを発表している。」の肯定的評価は、6月期92.5%、12月期91.7%で評価指数を達成。研究主題に沿った授業づくりが進められている。しかし、学級により十分ではないと回答する児童もいる。③「授業が分かりやすい」の肯定的評価は、6月期95.0%、12月期83.3%で12月期に目標が達成できていない。学習の進度についていけていない児童がいることが課題。	B	主体的で対話的で深い学びの実現のため、人の話を聞き、物事を多面的に考えたり、自分の考えを自信を持って表現できる児童の育成に取組んでいく。また、多くの意見を誘発するように授業の発問を工夫するなどの授業改善に取組む。複式授業において、主体的に学び、仲間に積極的にかかわる児童の育成を今後の研究の重点にしたい。	○授業中先生や友だちの話を聞く、分からないことは先生や友だちに尋ねる項目では97%と高く、しっかりと授業に集中できていることが分かる。さらに、1時間の学習の流れを理解させたり、目標が達成できたことを児童全員で共有したり、児童の学習意欲をさらに高めてもらいたい。
	(3)家庭学習	①帯タイムや放課後加力指導の継続。 ②生活習慣しらべ、年間5回以上実施。 ③保護者アンケートの家庭学習に関する肯定的評価80%以上	①帯タイムや放課後の加力指導は1年間継続して行われており、個別の学習指導の時間として定着している。②生活習慣しらべは、臨時休校のため年間4回の実施となったが、中学校ブロックで統一した取組となり、保護者への啓発にもなっている。③保護者アンケートはの家庭学習についての肯定的評価は83.3%で昨年に引き続き目標指数を達成できた。	A	個々の学力差を改善していくために、帯タイムの学習や放課後の加力学習指導を継続していく。生活習慣しらべは、中学校ブロックで統一した取組を進めながら、基本的な生活習慣を定着させるために保護者への啓発も併せて行う。家庭学習は個に応じた内容を精選したり、自主学習のノートコンクールを継続的におこなう。	○児童一人ひとりの学力向上に向け、帯タイム学習や放課後の加力指導は効果がある。また、生活習慣調べも児童が自分の生活・学習を振り返ることができ、継続してほしい。保護者においても家庭学習の取り組みが83%の結果であることからも成果が表れている。
	(4)英語教育の推進	1. 大湊シートの「英語」について、次の項目で肯定的評価90%以上 ①英語がすき　②英語は大切だと思う ③英語をもっと話せるようになりたいと思う。	①「英語がすき」の肯定的評価は、6月期82.5%、12月期83.3%、②「英語は大切だ」の肯定的評価6月期95.0%、12月期86.1%、③「英語をもっと話せるようになりたい」の肯定的評価は6月期82.5%、12月期69.4%、と、いずれも評価指数を達成できていない期間がある。複式学級における外国語指導の方法が課題となっている。	B	今年度は複式学級にして指導を行ったが、担任以外の教員が教えたり、通常の学級とは違う学級編成となったことで、英語に対する意欲を十分に引き上げることができていない。次年度以降、学級構成を考慮して、できるだけ単式で授業を実施する。また、ネイティブスピーカーとの国際交流も継続して行っていく。	○英語が好き、大切だの項目ではいずれも80%を超えており、英語学習が身についていることがわかる。英語で話すことが楽しくなるような、授業改善や学校環境の中に英語を使った表示などを取り入れるなど、学校生活の中で英語をもっと身近に感じれるようにしてはどうか。
生徒指導	(1)道徳教育の推進	1. 大湊シートの「あいさつ」「掃除」について、次の項目で肯定的評価90%以上。 ①自分からあいさつをしている　②掃除をまじめにしている ③「教室」や「ろうか」などにゴミが落ちていたらひろうようにしている。	①「自分からあいさつをしている」の肯定的評価は、6月期92.5%、12月期88.9%、②「掃除をまじめにしている」の肯定的評価、6月期97.5%、12月期91.7%でほぼ目標指数達成。特に、掃除は集会での評価活動等が効果に表れていると考える。③の項目も6月期82.15%、12月期80.6%とほぼ目標指数を達成しているが、やや消極的な意見もあり、学級での指導を継続して行っている。	A	「あいさつ」「掃除」に関しては、道徳的価値観の醸成のための基本的な取組として今後も継続していく。「ゴミが落ちていたら積極的にひろう」ことができる児童の育成のため、日常的に教室の環境美化への意識付けを行っていく。	○あいさつ・掃除、いずれの項目も肯定的評価が高く、道徳的実践力が育ってきている。ごみを見つけたら拾うことがやや低いことから、掃除の時間以外でもごみがあることに気がついたら、どうすべきか学校全体で確認しあい実践していくことが大切である。 ○自分は人をいじめることはないや友だちや下級生にやさしくしている項目は90%以上で高く、評価できる。また、いじめのない学校づくりの保護者の回答も97%であり、学校の取り組みを評価している。課題があれば、児童に寄り添い教職員が共通理解を図り、家庭との連携を常に図りながら取り組んでもらいたい。 ○友だちは自分の言ったことを分かってくれる。友だちの言うことはよくわかるは90%以上で良い結果である。自分にはいいところがある。好きだの結果はやや低い。学校全体で行う行事や学級での学習活動などの場で、積極的に友だちや自分の良さを確認できるような評価を取り入れていく場面を設定していくが大切である。 ○各項目とも1学期より低い数値になったが、「先生は児童に対し平等に接してくれる」「先生が言ったりしたりすることできずつくことはない」の評価では約89%であり評価できる。今後、学校生活全般の中で肯定的評価を児童に返しながら、児童理解を深め自尊感情を高めていくことが大切である。
	(2)いじめ・不登校・問題行動等への対応	1. 大湊シートの「いじめ」防止について、次の項目で肯定的評価90%以上 ①学校や学級の中にいじめはない。 ②自分は人をいじめることはない。 2. 保護者「学校評価アンケート」の「いじめのない学校づくり」の項目で肯定的評価90%以上 3. いじめ防止委員会を月1回以上開催し、全教職員での情報共有を徹底する。	1.「学校や学級の中にいじめはない。」の肯定的評価6月期95.5%、12月期77.8%と大きな落ち込みがあった。Q－Uアンケートとも合わせて、個人面談を実施し、個別のカウンセリングや心の支援を行った。事象として、人から嫌がることを言われたり、友人関でのトラブルが原因であり、学級での見守りを継続している。2. 保護者アンケートでは「いじめのない学校づくり」の項目で97.2%の肯定的評価があり学校の取組に対して一定の理解・評価があった。3. いじめ防止委員会は、月ごとの定例会以外にも、トラブルが起こった際には必ず開催し、全教職員での情報共有を徹底している。	B	「いじめの防止」については、教職員がアンテナを高く張り、些細な変化も見落とさないよう、日々子どもたちとの対話やカウンセリング活動を通じて、いじめの無い学校づくりを推進していく。また、いじめ防止委員会を定期的に開催し、全教職員での情報共有と、同じ目線に立った見守り活動を行っていく。	
	(3)自尊感情の育成	1. 大湊シートの「自尊感情」について、次の項目で肯定的評価85%以上 ①自分にはいいところがある　②自分のことがすきだ ③自信を持って、いろんなことができる	①「自分にはいいところがある。」の項目で、6月期90.0%、12月期77.8%　②「自分のことが好き」の項目で、6月期75.0%、12月期66.7%③「自信を持って、いろいろなことができる。」の項目で6月期80.0%、12月期63.9%と大きく落ち込んでいる。二つの学級で担任が代わったことが、児童へ影響していると考えられる。	C	自尊感情を育成するために、行事や学級活動の中で達成感や連帯意識が育まれる活動を意図的に仕組んでいく。また、学級経営を担任だけに任せず、級外教員や管理職が積極的に支援を行う。	
	(4)人間関係づくり推進（児童・児童と教師）	1. Q－Uアンケート、前期調査より後期調査で学級満足群の児童増加5%と要支援群の児童数0人 2. 大湊シートの「先生」について、次の項目で肯定的評価90%以上 ①先生はあなたのがんばりを認めてくれる　②先生と仲良くできている。 ③先生はみんなと平等に接してくれる。	1、Q－Uアンケートの推移は学級ごとにかわるが、「学級満群の児童」の割合は全体的に増加している状況とは言えない。要支援群の児童は6月期・12月期とも1名いた。該当児童には個人的なカウンセリングを行い支援をしている。1①「がんばりを認めてくれる。」6月期97.5%、12月期80.6%　②「先生と仲良くできている。」6月期100%、12月期72.2%　③「平等に接してくれる。」6月期100%、12月期88.9%で、この項目でも大きな落ち込みがあった。この項目も、学級担任が代わったことが要因と考えられる。	C	Q－Uアンケートや児童アンケートの結果について、一人ひとりの回答状況を確認し、日々の学級での様子に注意しながら、必要に応じて個人面談を実施している。また、上の段の項目と同じように、学級経営を担任だけに任せない体制づくりを行っていく。	
家庭・地域・学校の連携	(1)保幼小連携の推進	1. あけぼの保育所との連絡会や本校校区に在住する未就学児が通う保育所との交流事業を行う	職員の交流は1回、管理職の情報交換は定期的におこなっている。	B	今後も、定期的な情報交換を実施していく。また、中学校ブロック全体での教職員研修も実施していく。	○香南中学校ブロックでの連絡会を今後も継続し、保育から小学校、小学校から中学校への円滑な移行ができるよう、今後も充実したものになるよう取り組んでほしい。特に保育・小・中の課題を全関係職員で共有できたらよいと思う。
	(2)防災教育の推進	1. 大湊シート・保護者「学校評価アンケート」の防災に関する項目で、肯定的評価90%以上。	今年は、コロナウイルスの感染拡大防止のため地域との合同防災訓練は行っていないが、定期的な避難訓練を行い、教員の危機管理能力の育成を図っている。保護者の肯定的評価は97.2%で学校の取組が理解されている。	A	防災訓練や避難訓練は形骸化しないよう、その実施方法について常に修正を加えながら、とっさの場面でどのように対応していくのか研修を深める。また、保護者への啓発活動は継続して行う。	○保護者の防災教育の回答は97%と高く、学校での防災教育を理解してくれている。地域との合同の防災訓練は今年度できなかったが、大湊小防災教育計画に沿って取り組んでほしい。
	(3)地域との連携	1. 地域に対する授業参観及び児童アンケートをもとにした学校支援委員会との協議・懇談の実施。 2. 地域の行事への学校組織としての参加。	1・2とも計画はしていたが、実施はできなかった。しかし、夏の環境整備は児童・保護者と一緒になって行うことで、地域との連携の重要性を保護者も再確認できた。	B	コロナ禍での地域連携の在り方は、今後検討していく必要がある。できる限り、子どもたちが地域で活躍できる場を確保したい。	○学校支援委員会の開催や地域行事への児童の参加はほとんどできなかったが、学校環境の整備を1回実施することができ、地域との連携の必要性を保護者に感じてもらえたのではないか。また、児童は地域学習の中で地域の人からも見守られて生活していることを学んだと思う。
	(4)学校からの情報発信の充実	1. 学校だよりの充実、定期的な配布 2.「学校評価アンケート」の情報発信に関する項目で、肯定的評価90%以上。	①学校だよりは家庭・地域に定期的に配布し、児童の様子を知らせることが出来た。②学校評価アンケートの情報発信に関する項目は、97.2%の肯定的評価であった。	A	学校だよりや学級だよりにより、できる限り学校の様子を、家庭・地域に知らせていきたい。また、保護者からの要望を把握するため返信の活用を図りたい。	○学校・学級からの情報発信について保護者の回答は97.2%と高い。特に学校便りは学校・家庭・地域との連携を深めていく最も重要な情報であり、児童の生き生きとした姿など、今後も内容の充実を図ってほしい。

（ A：目標を上回った　B：ほぼ目標どおり　C：目標を達成できなかった ）

学校関係者評価を踏まえての改善点
1　①肯定的評価による規範意識・学習意欲の向上。②聞く指導の徹底と学習シラバスの提示。③個に応じた家庭学習の課題設定。④英語教育の研究と実践。日常的な英語環境の充実。
2　①いじめ・不登校の防止に向けた全校で見守り・支援体制の充実。②自尊感情の低い児童への個別支援・評価活動の継続。③児童へのカウンセリングと肯定的評価活動の充実。④全校体制での見守り充実。
3　①中学校ブロックでの保育所と連携した研修実施。②防災教育の充実と教職員の危機管理能力の向上　③地域と連携した学習活動の充実　④情報発信の更なる充実と工夫。学校と家庭との双方向での情報共有。